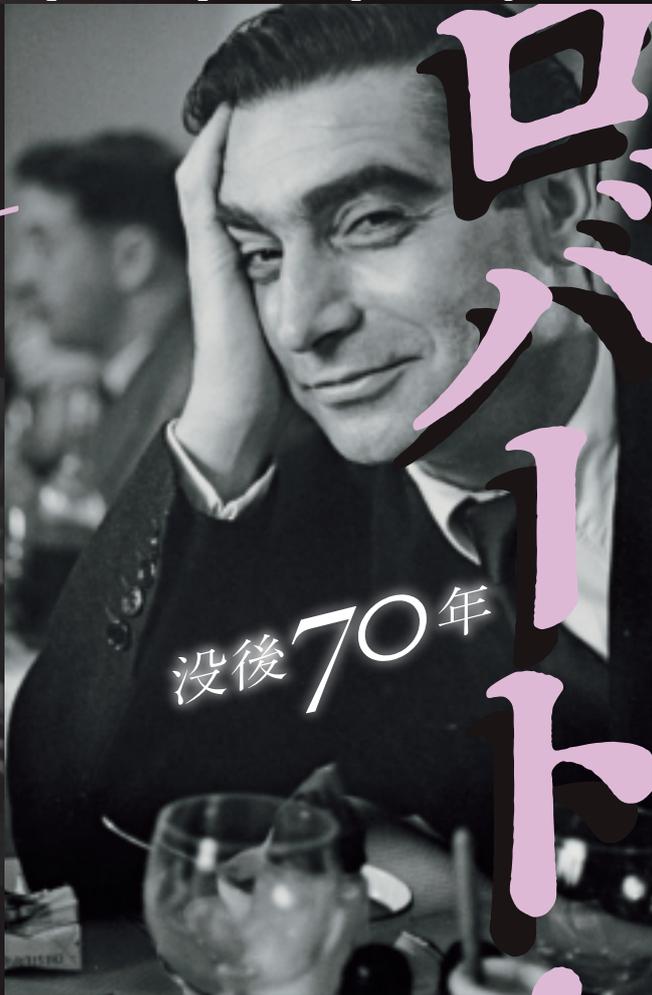


戦争を越えて

—写真家 ロバート・キャパ、愛と共感の眼差し—



ロバート・キャパ



A Century of War Caught on Camera
A Homage to Robert Capa 70 Years After His Death



2024 **4 | 9** [火] → **6 | 23** [日]

※ 5/20 に一部展示替えを行います

休館日：月曜日 ※ 4/29 (月祝)・5/6 (月休) は開館、4/30 (火)・5/7 (火) は休館

開館時間：10時～17時 (16時30分受付終了)

主催：東京富士美術館

後援：ハンガリー大使館、リスト・ハンガリー文化センター、八王子市、八王子市教育委員会

〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1 TEL: 042-691-4511

- ①ロバート・キャパ/1951年、ルース・オーキン撮影
- ②母親と赤ちゃん、ネグヴ砂漠北部のネグバ・キブツ/1949年
- ③東京駅のプラットフォームで一緒に電車を待つ子どもたち/1954年4月
- ④国際連盟会議場でエチオピア皇帝ハイレ・セラシエの演説を妨害したとして誤認逮捕されたスペイン人ジャーナリストと彼の口を塞ぐ警察官/1936年6月 (ヴィンテージ・プリント) ⑤共和国軍の兵士たち/1936年8月 ⑥共和国軍兵士の死 (崩れ落ちる兵士) /1936年9月5日
- ⑦オマハ・ビーチに上陸するアメリカ軍、Dデイ/1944年6月6日



FAM TOKYO FUJI ART MUSEUM 東京富士美術館

戦争を越えて

— 写真家ロバート・キャパ、愛と共感の眼差し —

A Century of War Caught on Camera

A Homage to Robert Capa 70 Years After His Death



国際旅団の解団式でファン・モデストのスピーチを聴く兵士たち/1938年10月
(ヴィンテージ・プリント)



ロバート・キャパ愛用の最期のカメラ (ニコンス)



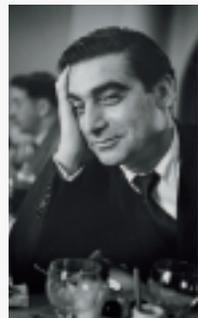
ナムディンからタイビンへの道/1954年5月25日

戦争の世紀と呼ばれた激動の20世紀、カメラを武器に五つの戦場を駆け抜けた伝説の写真家ロバート・キャパ。本年は、キャパが1954年5月にインドシナの戦場で亡くなってから70年の節目を迎えます。ジャーナリストを志したハンガリーの青年アンドレ・フリードマンは、最愛の人ゲルダ・タローとの出会いを経て、写真家「ロバート・キャパ」となり、あるときは戦場で、またあるときは街中で、ジャーナリズムの歴史に残る数々の写真を撮影しました。彼のレンズは、過酷な戦場にあると日常の街中にあると、懸命に生きる人間の、苦しみや悲しみ、楽しみや喜びなど、ありのままの素顔を捉えています。そこには他者に対する愛と共感の眼差しが溢れているのです。

本展では、キャパが伝説の写真家となるまでの軌跡を、彼の代表作によつてたどります。

また当館が所蔵するキャパのヴィンテージ・プリント75点を2期に分けて展示するほか、キャパが日本滞在中に撮影した多数の写真とともに、最期に所持していたカメラを特別公開いたします。

Armed only with a camera, photojournalist Robert Capa (1913-54) was hailed as “the greatest war photographer in the world” in a century of war. With 70 years passing since Capa was killed by a landmine in Vietnam, this exhibition pays homage to his work and legacy as an anti-fascist, democrat and early benefactor of photography as an art. It features 75 vintage Capa prints as well as the camera he owned at the time of his death.



ルース・オーキン撮影

ロバート・キャパ 1913-1954 Robert Capa

1913年、ハンガリー・ブダペスト生まれ。1930年代から写真家として活動を開始し、スペイン内戦や第二次世界大戦など五つの戦場で注目すべき作品を数多く撮影。とくにスペイン内戦時に兵士が撃たれた瞬間を捉えたとされる《崩れ落ちる兵士》や、ノルマンディー上陸作戦に同行して撮影した《Dデイ》は報道写真の歴史に残る傑作である。被写体に限りなく近づいて撮影する彼の手法は、常に死と隣り合わせの臨場感を生み出した。

記念講演会

講師：小川潤子
(フォト・コーディネーター/元マグナム・フォト東京支社 ディレクター)

開催日時：5月18日(土) 14:00-15:00

会場：東京富士美術館/本館 ミュージウムシアター

料金：無料(ただし、展示会の入場料金が必要、土曜は中小生無料)

定員：100名(先着順、申し込み不要)

詳細はホームページ www.fujibi.or.jp をご覧ください

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL: 042-691-4511

休館日：月曜日 ※4/29(月祝)・5/6(月休)は開館、4/30(火)・5/7(火)は休館

開館時間：10時~17時(16時30分受付終了)

※5/20に一部作品の展示替を行います

入場料：大人 1,500(1,200)円 大高生 900(800)円
中小生 500(400)円 未就学児無料

※新館常設展示室もご覧になれます ※()内は各種割引料金 [20名以上の団体、シルバー(65歳以上)、当館公式SNSフォロワー・登録者ほか] ※土曜日は中小生無料
※障がい児者、付添者1名は通常料金の半額 [証明書をご提示ください]

割引券

大人 1,500円 → 1,200円
大高生 900円 → 800円
中小生 500円 → 400円

本チラシをご提示の上、1枚につき10名様まで有効

同時開催

大使館の美術展 I — 文化交流随想 —

Exhibitions of Embassies Part I:
Introspective on Cultural Exchanges
with the World

新館第7展示室

HP: www.fujibi.or.jp

Facebook: www.facebook.com/fujibi

X: @tokyofujibi

Instagram: [tokyofujibi](https://www.instagram.com/tokyofujibi)

Line: lin.ee/kMOQ6yn

交通案内
はこちら



FAM
TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館